

第4章 推進体制

第1節 推進体制

1 推進体制の姿

「静岡市茶どころ日本一計画」に示した「計画づくりの視点」に掲げた「まちじゅうの参画」、すなわち、お茶のまちづくりに関わる関係者が、茶業者や市民は無論、異業種やNPOなど、さまざまな方面に広がること（連携、協働、融合）を重視する考えが、より発現されることをねらいに推進体制を整備します。

2 静岡市茶どころ日本一委員会

条例に基づき設置された「静岡市茶どころ日本一委員会」により、策定された「茶どころ日本一計画」の進行管理や見直しに対し、意見や提案をいただきながら、現場に生きた計画管理を進めていきます。

3 静岡市お茶のまちづくり推進協議会

茶生産・流通関係団体、日本茶インストラクター協会、茶文化団体のほか、異業種や消費者、行政の代表者により構成し、業界－市民－行政がスクラムを組み、茶どころ日本一計画の進行管理や社会実験をはじめ、実践への橋渡しを行います。

4 静岡市茶どころ日本一計画推進会議

農業としての茶業が多くの課題を抱えていることに加え、“茶業”は歴史的に産業の中でも広範な形で関わってきたことや、その振興策においてはマーケティングや歴史、文化面などへも及ぶことから、業務が多岐にわたるとともに、専門性を求められる分野です。

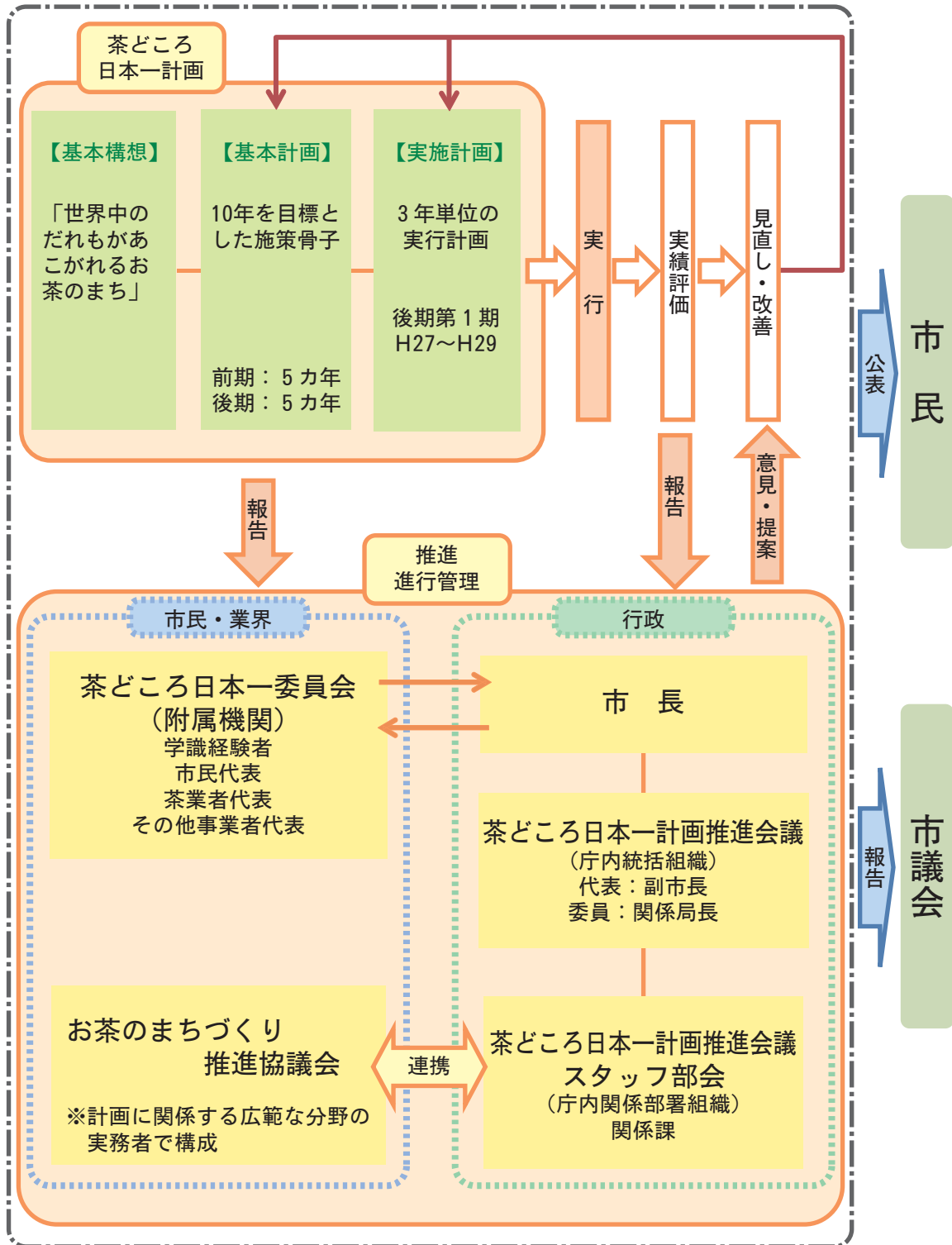
一方、本市が全庁的に取り組み始めているシティプロモーション事業についても年々規模が拡大され、その柱の一つである「お茶」は、富士山静岡空港開港に伴い、より一層広範な活動展開が求められてくることから、「茶どころ日本一計画」の策定を契機に、その計画管理機能を中心に行政体制の拡充を進めます。

第2節 社会実験事業の展開

お茶のまちは、これまでに培われてきた技（わざ）や歴史、文化を継承しながら培っていくとともに、様々な視点で新しい生活文化を生みだしながら、その深さや裾野への広がりを進めていくことが望まれます。その糸口として、「静岡市茶どころ日本一計画」の実現に近づくための新たな提案に基づく仕掛けを関係者の協働で“実験”してみようとする動きを「社会実験事業」（※10）として位置付け、新たな動きを生み出す先行的な活動を進めていきます。



推進体制・進行管理体制



凡事徹底

～つくりあげるのはわたしたち市民の力～

「凡事徹底」：小さなことを積み重ねてこそ成功できる。あたり前のことをあたり前にできるようにすることが非凡につながる。すべてはわたしたちの行動から始まることから、次の4つを行動指針とします。

○今を変えるのは、一人一人の心と行動の一步からはじまります。

物事は待っていても、他人に求めても変わるものではありません。それに関わる一人一人の変えようとする意志と、変えようとする行動があって初めて“変化”が生まれます。

○何をするにも笑顔と遊び心を忘れません。笑顔には人が集まります。

ただ難しい、大変なことだけでは継続しにくいですし、仲間も増えていきません。そこに小さくとも遊び心や楽しさがあって、笑顔が苦難を乗り越える力を生み出します。

○喜びは与えられるものではなく、まず自ら動くことから生まれます。そして共に動く者が増えたとき、その喜びは倍増します。

“幸福”の価値観は人それぞれですが、自ら動いて得た喜びはひとしおです。その行動が共感を呼び、人々が寄り集まってきたら、喜びは次々に生み出されてきます。

○大きなまちだからこそ、小さなことからでもはじめます。ずっとずっとつなげていきたいから今からはじめます。

大きなものを動かすには大きな力が必要です。でも、その力が結集されるまで待っていたら、“動き”はいつ生まれるかわかりません。また、大きな変化が生まれるためには長い時間がかかります。だからこそ、できることからすぐにはじめます。

